

大阪商業大JGSSプロジェクト

信頼できる社会調査を

売れたロングセラーだ。著者は大阪商業大(東大阪市)の谷岡一郎・学長兼教授(50)。犯罪学、ギャンブル社会学などでも発言する一方、昨春から、大商大などを運営する学校法人谷岡学園3代目理事長も兼ねる異色の研究者である。

JGSSは大商大比較地域研究所が99年、文部省(当時)から「学術フロンティア推進拠点」に選定されたプロジェクト。主な協力機関は東大社会科学研究所。日本人の意識や行動を総合的に調べる社会調査を継続的にに行い、研究者にデータを開示する、日本初の取り組みとなった。「社会調



JGSSプロジェクトで打ち合わせする大阪商業大学のメンバー(右から2人目が谷岡一郎・学長兼教授)

世論誘導を狙ったアンケート、バイアス(偏向)のかかった調査報告、データ不足で主観に寄り掛かったリポートなど、世には「ゴミのような社会調査」があふれている。明快、軽妙、洒落な筆致でそんな「注意喚起」を試みた『社会調査』のウン(2000年6月、文春新書)は既に19刷、8万部が

「〇〇の街角△△で深夜、若者30人に『空腹時に欲しくなる、好きな食べ物』を聞くと、20人がハンバーガー」

「〇〇の街角△△で深夜、若者30人に『空腹時に欲しくなる、好きな食べ物』を聞くと、20人がハンバーガー」



【高田茂弘、写真も】
JGSS 72年に設立された米国シカゴ大GSS(ジェネラル・ソシヤル・サバイバル・総合的社会調査)が先行。GSSは「データの裏付けのない理論」に従った政策の失敗への反省から構想された。J(日本)GSSと共に中国、台湾、韓国などと協力し合うEAS(東アジアSS)も進展中。